

幼児からの手紙

「とくながせんせい こんにちは あきこはせんせいのおかおをしりません にいがたへあそびにい
ったら たっちゃんとあいにゆきます。あきこより」

ある日こんな内容の手紙が届いた。別添えで、神戸に移り住んでいるために、子どもの成長ぶりをお見せできないが、無事幼稚園に入った様子などを書いた母親の手紙から、お産をとりあげた一人の主婦を思い出した。忙しい外来診療を終え、医局に戻ってきたばかりの時だったので、気持ちがホッとするひとときであった。

高齢出産だったのでとても心配していたケースだったが、無事長女を出産し、二度目の時は骨盤位から足位となり緊急帝王切開で出産したので印象に残っていた。「母子手帳を見ながら、大声で叱られたことが懐かしく思い出されます」とも書かれていた。あれだけ心配して、育児に自信がないと言っていたが、子どもさんたちに分娩の時の苦しかったこと、分娩に立ち会った医師や助産婦さんのことなどを話している様子がかがえて、よかったという気持ちと、一方では身の引き締まる思いもした。

今まで多くの妊婦さんの分娩に立ち会ってきた。真夜中のお産や疲れている時など、不愉快な顔で立ち会ったこともあり、そんな時の妊婦さんの場合自分のお産の時の状況をどんなふうに話して聞かせているのだろうか。知るすべもない。

とりあげた子どもたちは、皆どのような成長をしているのだろうか。二度目、三度目のお産で来院する妊婦さんは、時に子どもを連れてその成長ぶりを見せてくれることもあり、また写真付年賀状を送ってこられる人もあるが、それはほんの少数である。

分娩中には、突然異常が生じて吸引や鉗子（かんし）を使っただけの分娩となることもあり、緊急帝王切開になることもある。そんな場合、後で障害が起こらないかと不安な日々を送ることも少なくない。

中には、障害を残して苦労されている人もおられるのでは・・・。

二度目のお産でこられたある妊婦さんの母子手帳に＜前のお産の時、入院直後よく説明もないまま陣痛促進剤で出産となった。今度は自分の力で出産したい＞と書かれていた。母親として、子どもたちに生まれた時の状況を話す際、分娩の苦しかったことなどは忘れて、生んでよかったと喜びを話す母親が多いのではないだろうか。子どもたちはそんな時、どんなことを想像して聞いているのだろうか。この手紙を読んで、初心を忘れないように常に自分に言い聞かせ、とりあげた子どもたちのすべてが健やかに育つように願っている。